



三宅キャンパスで最後の、広島なぎさ中高として最初の体育祭 ～旧キャンパスで種蒔き、新キャンパスで発芽・成長を～

広島なぎさ高等学校
教頭 角島 誠

2回の順延の果ての快晴

5月26日(月)。2年前の途中降雨による短縮プログラムという不完全燃焼の二の舞は避けたいと、雨のための2回の順延を経ての快晴ベストコンディションの下、三宅キャンパス最後の、そして広島なぎさ中高はじめての、更には様々な仕掛けの種蒔きをした体育祭が実施されました。

1-生れ月別、紅白チーム制度の2年目 新競技・精選・演出

骨太な伝統と縦割りの人間関係の構築という狙いから生れ月で構成される紅白チームを導入して2年目。

昨年度は生れ月で紅白チームは分けたものの、種目としては徒競争などの個人種目が多く入っていた従来種目を行い、とりあえずやってみるといったものでした。

今年度は、集団がダイナミックに動き、視覚的にも紅白の塊がうねっ

て競っている様子が伝わるような競技を入れることで、その場に居合わせたものが「紅白の戦い」を強く意識できるような工夫がなされました。

次から次へと屈んで並んで背中を道を作り、その上を紅白のヘルメットを被った代表が渡っていく「背渡り」の果てに立てた旗を奪うべく、今度は次から次へと組んで作った手の道を渡る「背渡り手渡り世渡り上手」。その様はうねる大蛇、旗に群がる様は大蛇のとぐろの如し。紅白ヘルメットを被った大将騎馬制を導入した改良「騎馬戦」。大将騎馬に四方から体当たりでぶつかって倒しに行く様はまさに関ヶ原か、合戦場。

直径1mを超える五色八個の大玉を相手陣地に押し込む「押忍！大玉」。両軍の押し合いバランスが崩れたときに大玉が空中数mに吹き上がる絵はまさに「彩り」。下級生が先に綱引きしているところに上級生が他所から猛然と駆け付けて助ける「援軍綱引き」。紅白の援軍がトラックを半周走って

駆け付ける様は竜巻か…。

教員も日ごろからID証に紅白応援プレートをつけるなど、当日の紅白戦に向けての演出。そして、教員のみでの紅白対抗綱引きも当然、紅白勝負を左右する競技。

数々の新競技や演出の試み。この学校には、勢いがあります。

2-NZバサデナ交換留学生の参加

例年、体育祭前に帰国していたバサデナ中学生も今年から体育祭に参加できるような日程での交換留学プログラムを組みました。

体育祭を英語としてどう翻訳するか。Sports DayまたはSports Festivalと翻訳しても、我々がイメージする「体育祭」を意味しない。NZからの引率教員にとってのイメージは、サッカーやボートボールといったいわゆる既存の競技が終日行われるもの、といったものだそう。

その準備の過程を見、さまざまな独自競技を展開し、100名近い応援団が色とりどりに乱舞し、閉会式で感涙するその様を見て、行事を通して生徒を育てるということに彼らは大いに領いた。そして、1200人規模を丸一日屋外で、いわゆるスポーツ競技でない独自の競技を通して運営していく緻密さ、組織力といったものにMade in Japanがその信頼を得ている背景のようなものがよく理解できたとは、引率教員の感想でした。

バサデナ生が参加した競技の1つに大縄跳び(skipping rope)がありました。事前の体育の授業で練習をして

のぞんだものの、今年の中学3年4組が叩き出した2回合計104回の新記録には遠く及ばず…。次年度留学生は新記録を破るべくNZで練習をして交換留学に来るとのこと。

体を動かし、共通の目標を持てること。互いにとって国際性を育むまた一つの場面ができました。

3-NGP～なぎさ元気プロジェクト

人間力をぐっと根底から育み、個を支えてくれる集団の作用。それは何だろうか。例えば、なぎさ生が集まったときに、居合わせたみんなで盛り上がられて元気になれる、元気が出る掛け声のようなもの、そんなものがあるといいなあ。教員の間でも必要性を感じられたものの、あくまで主体は生徒。生徒はどう感じているだろうか。

愛着ある校名からの変更には様々な思いがあったものの、生徒会と高校3年生を主体とした応援係の幹部に問うてみた。果たして、この校名以降



に続く後輩達にとって、何かいい形で盛り上がる伝統を残していきたい！

生徒主体の種蒔きがここからスタート。これを「なぎさ元気プロジェクト」、頭文字NGPと称し、体育祭の最後にお披露目、と目論んで着々と準備。

当日、閉会式。お披露目担当の白組団長が緊張のあまり、説明もなくいきなりお披露目。唐突な感じはしたもの、何とか全員が声を揃えた状況が実現。

生徒会は、後日の生徒会報に、紅白団長のコメントを掲載し、閉会式での“あの掛け声”を「なぎさ元気」と命名しました。そして、文化祭のエンディングにもつなげる構想でNGPの定着へ。

ありがとう 三宅キャンパス！

南北校舎に挟まれ、1周200mに満たないRのきついトラック。少し動けば砂煙が舞い上がった土のグラウンド。そんな短所も臨場感たっぷりと転じた三宅キャンパス。その特性を存分に生かし、誰もが真剣に取り組み、男女がそれぞれ応援し合い、「美しい」と形容するに値し、まさに最後にふさわしい体育祭でした。

三宅キャンパス ありがとう！

そして…

各競技を断片的に見れば、玉を転がし、縄を引っ張り、走って、踊って、跳んで…、それが体育祭の表面的な姿なれど、それを運営し、演出し、準備の過程も含めての学校行事。

人間力を育み、確かな学力を下支えする、学校生活・学校環境への肯定感、満足感を強固にしていくための数々の「学び」を仕掛けた学校行事。間力を育み、その他、愛力、肝力、体力といった人間力を育み、そして、スクールアイデンティを確認できること。

浸透と完成度からすれば、まだまだその学びの仕掛けの端緒であったけれども、快晴の下での成功の充実感が、さまざまな種蒔きに対する肯定感としてつながったかな。この種が新キャンパスで発芽し、広島なぎさ中高の太い伝統として成長していくことが十分に予見できた種蒔きでした。

…大切なことを忘れていました。

3月生まれ白組の私としては、あまり報告したくないのですが、今年の紅白の勝敗は、

紅1880 対 白1410 でした。

